

## 岩部浩三先生主要業績一覧

### 論文

1. 「否定要素前置と主語・助動詞倒置について」『英語学』25, 54-70. 1983年2月
2. Syntactic and Semantic Analysis of NP-to-VP Complements, *Tsukuba English Studies* 2, 63-80. 1983年8月
3. 「依頼表現における動詞句のプロミネンス」『英文学研究』60(2), 261-273. 1983年12月
4. When a Sentence Is Not Propositional, *Tsukuba English Studies (English Linguistics Today, Kaitakusha)* 3, 13-21. 1985年1月
5. Semantic Interpretation of Free Adjunct Constructions, *Tsukuba English Studies* 5, 1-13. 1986年8月
6. 「分詞構文の意味解釈について」『英語と英米文学』21, 27-33. 1986年12月
7. On Individual-Level and Stage-Level Predicates in Restrictive *If*-Clause, *English Linguistics* 7, 1-13. 1990年
8. 「制限的 when 節と分詞構文の違いについて」『現代英語学の歩み』（開拓社）287-295. 1991年11月
9. 「日本語のアクセント：固有名詞と普通名詞」『英語と英米文学』27, 1-10. 1992年12月
10. 「Only if」『英語と英米文学』30, 1-17. 1995年12月
11. 「Only : Horn (1996) の批判と Conjunction Analysis 再考」『英語と英米文学』32, 1-18. 1997年12月
12. 「総称文と一般化」『英語と英米文学』33, 1-28. 1998年12月
13. 「『一般化』について」『山口大学文学会志』49, 31-44. 1999年2月
14. 「存在的総称文と一般化の階層性」『言語研究の潮流』（開拓社）51-66. 1999年12月
15. 「総称文における均質性条件について」『意味と形のインターフェイス 上巻』（くろしお出版）267-278. 2001年3月
16. Generics and Homogeneity, *English Linguistics*, 19(2) 461-480. 2002年
17. 「進行形と単純形の意味論」『英語と英米文学』41, 1-19. 2006年12月

18. 「総称文と数量化について」『時制とその周辺領域の発展的研究』（平成20-22年度科学研究費補助金（基盤研究（C））研究成果報告書）33-46. 2011年3月
19. 「成績分布共有システムを活用した組織的なFD活動の推進についての研究」『日本教育情報学会年会論文集』27, 66-69. 2011年8月
20. 「演繹と帰納：総称文における数量化について」『英語と英米文学』47, 1-27. 2012年12月
21. 「総称文研究の新展開」『英語と英米文学（宮崎充保教授退職記念号）』49, 1-18. 2014年12月
22. 「総称文の多様性と認知能力の複合性：社会的偏見の克服に向けて」『英語と英米文学』51, 1-16. 2016年12月
23. 「総称文の謎を認知能力の複合性から解く」*JELS* 36, 24-30. 2019年2月
24. 「総称文の多様性：ヘブル語と日本語データによる検証」『英語と英米文学』56, 29-56. 2021年12月
25. 「総称文と同定：ヘブル語代名詞的コンピュータと日本語同定文」『英語と英米文学』57, 1-18. 2022年12月

#### Misc.

1. 「NP to VP を取る動詞の意味構造」（第三室，日本英文学会第55回大会報告）『英文学研究』60(2) 355-355. 1983年
2. 「Only—Horn (1996) の批判と Conjunction Analysis 再考」（日本英文学会第70回大会報告）『英文学研究』75(2) 357-357. 1998年
3. Renaat Declerck and Susan Reed, *Conditionals: A Comprehensive Empirical Analysis*, Mouton de Gruyter, 2001., xviii+536pp.『英文学研究』83, 209-213. 2006年
4. 「山口大学における教育改善（シンポジウム I 「FD の組織化と評価」, ミニシンポジウム）」『教育情報研究』Special 49-52. 2009年
5. 「学士課程教育の質保証のための組織的カリキュラム改善の取組—『教育改善FD研修』を通じたカリキュラム改善の試み（高等教育の改革と評価）」『年会論文集』26, 90-93. 2010年8月
6. 「総称文の対照言語学—英語・スペイン語・フランス語における総称」『フランス語学研究』52, 113-121. 2018年6月

## 書籍編集・教科書

1. *English Linguistics Today*, 共編著者, 開拓社, 1985年1月
2. 『言語研究の潮流』 共編著者, 開拓社, 1999年12月
3. 『英語基礎』 編者・分担執筆, 開拓社, 2002年9月

## 講演・口頭発表等

1. 「NP-to-VP を取る動詞の意味構造」 日本英文学会第55回大会, 1983年5月14日
2. 「When 節・If 節の中の場面述語と個体述語」 日本英語学会第7回大会, 1989年11月18日
3. 「Only If の自然言語的分析」 日本英文学会中国四国支部第48回大会, 1995年10月28日
4. 「Only—Horn (1996) の批判と Conjunction Analysis 再考」 日本英文学会第70回大会, 1999年5月24日
5. 「英語の進行形と単純形について」 平成18年度時間学セミナー, 2006年9月
6. 「総称文の多様性と認知能力の複合性仮説」 日本フランス語学会2017年度シンポジウム, 2017年6月3日
7. 「総称文の謎を認知能力の複合性から解く」 日本英語学会第36回大会, 2018年11月24日
8. 「総称文の多様性と認知能力の複合性—英語から他言語へ」 筑波英語学会第41回大会, 2020年11月28日

## 項目執筆・訳稿作成など

1. *Current Bibliography on Linguistics and English Linguistics*, 開拓社, 1983年 (編集協力)
2. ノーム・チョムスキー『統率・束縛理論』 研究社, 1986年 (訳稿作成 (一部))
3. 『例解現代英文法辞典』 安井稔編, 大修館書店, 1987年 (項目執筆)
4. ノーム・チョムスキー『統率・束縛理論の意義と展開』 研究社, 1987年 (訳稿作成 (一部))
5. 『現代英文法辞典』 荒木一雄・安井稔編, 三省堂, 1992年 (項目執筆)
6. 『コンサイス英文法辞典』 三省堂, 1996年 (項目執筆)

### 科研費による研究課題

1. 時制とその周辺領域の統語的・意味的研究, 2003年4月～2006年3月
2. 総称文における法性と数量化について, 2010年4月～2013年3月
3. 人間の認知能力の複合性と総称文の多様性, 2016年4月～2019年3月
4. 総称文研究における認知能力に基づいた枠組みの検証, 2020年4月～2023年3月